

第 26 期 国立市社会教育委員の会（第 13 回定例会）会議要旨

令和 8 年 5 月 27 日（水）

〔参加者〕

- ・社会教育委員 小畑、寺澤、堀、横山、根岸、田代、大森、生島
- ・ミニテニス「羽衣クラブ」 ヒアリング対象者 A、ヒアリング対象者 B、ヒアリング対象者 C

〔事務局〕 中道、楠本、関

生島議長 それでは、第 26 期国立市社会教育委員の会第 13 回定例会を開会いたします。

本日は、荒井委員から欠席の連絡をいただいておりますが、定足数に達していますので、本日の会議を始めたいと思います。

また、今日は、この後、ヒアリングということでミニテニスの皆さんにお願いいただいております。後ほどちょっと座席を移動していただいて進めたいと思いますので、お願いします。

まず初めに、本日の配付資料につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

事務局 事務局です。

資料の説明をさせていただきます。皆様から見て、まず右側の山についてです。資料 1、委員名簿です。続きまして、資料 2 がミニテニスの質問シートとなっております。

続きまして、左の山のほうの説明となります。上から第 26 期第 12 回議事録、そして公民館だより、図書室月報、「いんふおめーしょん」、続きまして、第 70 回くにたち市民文化祭の記録集、そして、「くにたち公民館 70 周年記念誌 ともに学ぶ」です。こちらの最後に言ったくにたち公民館 70 周年記念誌なんですけれども、本日、欠席の荒井委員が作成のほうに携わったものとなりますので、お時間あるときに御覧ください。

説明は以上となります。

生島議長 ありがとうございます。

それでは、次第に入る前に、事務局より委員の構成につきましてお話がありますのでお願いいたします。

事務局 事務局です。

委員の構成について、皆様にお伝えしたいことがございます。松塚ゆかり委員ですが、お仕事の御都合により退任のお申出がありまして、退任届が出ております。非常に残念ではございますが、皆様、御承知おきいただければと思います。よろしくをお願いいたします。つきましては、資料 1 の委員名簿を御覧ください。松塚委員の御退任について反映した形となっております。

また、その他訂正のほうが 2 点ございます。生島議長の役職につきまして、訂正をしております。もう 1 点、田代委員の振り仮名ですが、前回の定例会ではタシロマサト委員になっておりました。正しくはタシロマサヒト委員でございます。大変申し訳ございませんでした。以上、訂正させていただきます。

説明は以上となります。

生島議長 ありがとうございます。

それでは、次第 2 のミニテニスのヒアリングに入っていきたいと思います。

ミニテニスの皆さん方、こちらのほうに御入場いただければと思います。よろしく願いいたします。

(ヒアリング対象者 入室)

生島議長 では、これから始めさせていただきたいと思います。

3名の方々、本日は横山委員からの御紹介ということで、社会教育委員の会にこのようにお越しいただきましてありがとうございます。平日のこの夜間の時間帯で、お仕事帰り等もあったかと思います。本当にありがとうございます。

私は、社会教育委員の会の議長をしております生島美和と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

では、まず初めに、委員がどういう顔ぶれなのかということにつきまして、先に委員のほうから少し自己紹介をして、その後、皆さん方、3名の方々からお話しいただくというふうにさせていただきたいと思います。

近いところから、根岸委員からお願いできますでしょうか。

根岸委員 国立市青少年育成地区委員長会から社会教育委員の会に参加しております、根岸と申します。私も横山委員と一緒にミニテニスをやっていますので、またこれからもよろしくお願いします。

生島議長 では、横山委員。

横山委員 国立市スポーツ協会から参りました横山です。もう皆さん、お顔なじみなので、今日はよろしくお願いします。

堀委員 国立市の図書館協議会の委員をしております、そこから推薦されて社会教育委員をしています。元は、国分寺市で図書館に勤めていました。よろしくお願いします。

寺澤委員 NHK学園高等学校の寺澤と申します。今日は書記としてメモを取らせていただきますので、どうぞよろしくお願いします。

小畑委員 国立市立小中学校校長会の会長をしております、第六小学校校長でもあります、小畑と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

大森委員 大森と申します。東京学芸大学で教員をしております。

田代委員 民生委員をしております田代正人です。よろしくお願いします。

生島議長 こういうメンバーでお話をお聞かせいただければと思います。よろしくお願いいたします。

では、内容に入ります前に、まず初めに、皆さん方、お三方それぞれお名前と、それからどちらのチームのほう、ミニテニスの所属かということと、ミニテニス歴といえますか、そういったことを少しお話しいただければと思います。内容は、またこの後、深めていきたいと思いますので、まずは自己紹介をお願いします。

ヒアリング対象者C 立川市の羽衣クラブに所属しています、ヒアリング対象者Cと

申します。よろしくお願いいたします。ミニテニス歴は5年程度です。

生島議長 ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

ヒアリング対象者 B 私も立川の羽衣クラブでミニテニスをしております、ヒアリング対象者 B と申します。ミニテニス歴は10年ぐらいですかね。楽しくやらせていただいています。

生島議長 よろしくよろしくお願いいたします。

ヒアリング対象者 A ちょっと座ったままでよろしいですか、すみません。

私、羽衣クラブのヒアリング対象者 A と申します。このクラブに入って私はまだ、それでも27年ぐらいになりますかね。これだけ続くということはなかなか今までなかったんですけど、そういうことで、後ほどまた内容についてはお話しさせていただきたいと思いますので、よろしくどうぞ。

生島議長 よろしくよろしくお願いいたします。

では、これから少しお話を伺えればと思います。ぜひちょっと硬くならずにごくばらんにお話しいただければと思います。

時間としては、1時間から1時間半にはいかないぐらいでお聞きしたいと思います。随時、委員の方々から何か御質問等ありましたら、またはお互いに何かフォローし合うことがありましたらお声出していただければと思います。

まず初めに、ミニテニスをされて5年、10年、そして30年近くということなんですけれども、どんなふうにしてこの活動を知っていかれたのか、始められたのかということについて、お三方それぞれお話しいただければと思います。

お話ししやすいところからでもいいですけれども、いかがでしょうか。では、短いほうからでもいいですか。長いほうからのほうがお話ししやすいですか。

ヒアリング対象者 A 私のほうからですね。

生島議長 はい。では、ヒアリング対象者 A さんからよろしくお願いいたします。

ヒアリング対象者 A この質疑に準じてということですか。

生島議長 そうですね、基本的に。

ヒアリング対象者 A そうですか。

その前に、私、横山さんのほうからこのお話をいただきまして、実はドキドキしちゃったんです。どんな人たちが来るのか。そうしたら、お偉方がたくさん来ていますというようなことで、非常に緊張した状態で、せっかくのお話でしたので、横山さんの少しでもお役に立てればと思いまして、お受けしました。

横山さんは、羽衣クラブの準会員として以前から来ていて、非常に活気のある人ですんで、横山さんが来ると非常に明るくなっちゃうんですね。皆さん、そう感じますよね。そんなことで、羽衣クラブとしては非常に雰囲気の良い状態で、今、練習を月木、夜の7時から9時まで、2時間の活動でやっております。

ちょっと質疑に準じてですけれども、これ、1番目、どのようにしてこの活動を知りましたかという内容でございますけれども、私自身としては、平成

10年の2月か3月ぐらいだと思うんです、私、入りまして、当時、私は勤めていましたから特に運動というのはしてないんですね。私、ずっと実業団で27歳までバレーボール一本でずっとやっていましたので、それ以降は全然運動らしきものは全然してなくて、一応、この話が来たのが、うちの家内がもう3年ぐらい前からやっていて、お父さんもやってみないかというような話になりまして、何だ、そんな軟らかいボールでネットでもなく、変なカラーボールで何が面白いの。そんな感じで私、いまして、取りあえずは誘われたから練習のほうに行きまして、そのきっかけというのはそういうことでミニテニスを知ったわけですね。それから、だんだんだんだんはまっていくんですけれども、一応、この1項目についてはそんなような状況でございました。

生島議長 ありがとうございます。

すみません、最初にお話ししなければいけなかったんですけれども、お話しいただいた内容につきましては、これから記録にまとめさせていただく関係で録音をさせていただきたいと思います。今のお話、よろしいでしょうか。すみません。すみません、事後報告になって。

また、社会教育委員の会の発言につきましては、全文公開という形で、後ほど修正等もある場合もありますけれども、全文公開として国立市のホームページに掲載させていただきたいと思いますので、そちらのほうも御了解いただきますようお願いいたします。

失礼いたしました。今、お話しいただいたことは大丈夫かなというふうに思いますけれども、よろしいでしょうか。

ヒアリング対象者 A はい。

生島議長 失礼いたします。こういう形で進めていきたいと思います。

また、先ほど自己紹介の際にお話しいただきましたが、寺澤委員に今日は記録をお願いいたします。

では、お願いいたします。

ヒアリング対象者 B 私がミニテニスという競技を知ったのは、約20年ほど前、立川の体育指導員になったときですね。ミニテニスというのは、御存じのとおり立川で生まれたスポーツで、当初は高齢者でもできるというスポーツだったんですよね。毎年9月15日に、敬老の日にミニテニス大会というのを開催されていて、その運営を、私、スポーツ振興課と体育指導員でやっていたところからこの活動を知りました。ですから、それまでは全く知りませんでした。自分はサッカーと、硬式テニスだったんで、このようなものを自分がやるとは全く思っていなかったんですけれども、知ったきっかけはそんな感じです。

生島議長 体育指導員になられてから始められるまでには。

ヒアリング対象者 B 少し時間がありました。

生島議長 ありましたか。

ヒアリング対象者 B 最初は運営や審判とか会場設営だけやっていました。立川市って12町がありまして、12町で12競技でいろんな、国体方式の、要は競技ごとに順位によって点が。その中にミニテニスがあったんですけれども、私どもの町会はあったクラブがなくなってしまって、なくなった年になぜかほかの

競技よりいい記録を残して、総合的に6位になったんですね。5位で優勝だったんですけども6位だったんです。これだったらもう出れば、参加点が入るんで4位、5位だったんじゃないの？　というところから素人で集まって始めた。そんなところですよ。

生島議長　ありがとうございます。
では、お願いいたします。

ヒアリング対象者C　今、説明があったとおり、僕は父から聞いて、12町でも試合に出るのに人数がないということで駆り出されたのがきっかけで、最初、始めたんですけども、自分もまだかなり若かったと思うんですけど、それでも御年配の方にボコボコにやられる。すごい悔しかったんですね。それがきっかけで、Q2になってしまうんですけど、その悔しさからミニテニスを始めようになって、知って始めるようになりました。

生島議長　それで、今、5年目ぐらい続いているかと思うんですけども、頭数というだけではなくて、続いて、続けて楽しんでやっているという。

ヒアリング対象者C　横山さんの指導もあって、一緒に試合に出させていただいたりとかもしているんで。

生島議長　ありがとうございます。

ちょっと今、Q2に関わって、どうして活動に参加したいというふうに思われましたかということにもあるんですが、もう長ければ30年近く、そしてまた十数年というふうに続けられていらっしゃると思うんですけども、やっぱり参加されてみて、参加してみようと思った。今日、お話を聞いていると誘われてとか、何か始めてみようかなって、すごく強い動機というよりは、声をかけられてということかとも思うんですけども、そこから続いていったときの、続けられてきているところでのモチベーションといいますか、何で続けられてきているかという部分も含めて、ちょっと今の少し補足していただくことがあれば、教えていただければと思います。

ヒアリング対象者A　私のほうからお話しさせていただきますと、ちょっと繰り返し、先ほども申し上げたような内容になるんですけども、いわゆる運動していない。ほとんどもう27歳だったかな。そこでもう運動というのは立ち消えていた状態だったんですね。たまたまこういうことで、家内から勧められて始まったのが、ちょうど私が五十五、六ぐらいでしょうかね。

生島議長　御年齢が。

ヒアリング対象者A　このミニテニスを勧められて知ったことが五十五、六ぐらいのときでしたんで、運動は取りあえずバレーボール一本でしたけれども、先ほど申し上げたように、カラーボールを見たときに、こんなフニャフニャしたボールがどうして楽しいんだろうというような感覚で私は見ていました。そして、結局、誘われたからちょっと練習に行って、ラケットというものも初めて、私はもうバレーボールですから、そんなもの使いませんから、ラケットを持って、テニスなんていうのも経験がないもんですから、ラケットで打ち始まったときに、打てば物すごいスピードが出るわけですよ、あれね。僕もちょっとばか力だったもんですから、それを打つとボールがすごいスピード出るわけですよ。

そのスピードが、相手にとっては非常に脅威を持っていたらしくて、恐ろしかったなんていうような話も後から出たんですけども、そういうことで、自分のそういう楽しみがここに一つできたのかなという感じで、それが一つの言ってみれば参加したい、継続してみようという気持ちになったのはそのあれですね。

生島議長 ありがとうございます。

ヒアリング対象者 B 私が、硬式テニスをやっていた時は、大会は立川市内だけなんですね。ミニテニスは、市内はもちろん、都内もあり、他県もあり、同じ年代の人たちと試合をすることが多いんで、どこの会場に行っても、同じような人と毎回戦う。勝ったり負けたりしながら、次は負けないぞ的な切磋琢磨しながらやっていくのが面白くて、どんどんどんどんはまっていったということですね。

生島議長 対戦相手というか。

ヒアリング対象者 B 対戦相手というか、そもそも同じ年齢で固まっているんで、どこの大会に行ってもブロックが一緒なんで、前回負けていたら今回は勝ちたいなみたいな、そんな感じでずっと。話も、毎回毎回行くたびにいろんな話ができるようにになって、いろんな人たちと交流ができてとても楽しいですね。

生島議長 ありがとうございます。
いかがでしょうか。

ヒアリング対象者 C 自分も、だからラケット競技って初めてで、見たことのないようなこういう動きをする競技なので、バウンドしてからネットに戻ったりというのはほかの競技にはないなって、それでも楽しかったですし、最初始めたときは全然勝てなくて悔しかったんですけども、徐々に徐々に勝てるようになってきたときのうれしさがあって続ける、どんどん順位が上がっていくたびにモチベーションも上がりますし、いろんな人から声かけてもらって、違うところの練習とかに誘ってもらえたりして、どんどん自分が上達していくのがやっぱり楽しくて、この活動が続くようになりました。

生島議長 ありがとうございます。

以前は何か、先ほどバレーボールやっておられたとか、サッカーとか、何か運動はやられていたんですか。

ヒアリング対象者 C サッカーとハンドボールですね。

生島議長 ありがとうございます。

まず、一通り少しちょっとお話を聞いてから、何か御質問あればと思います。

では、3番目に行かせていただきたいと思いますけれども、こういった活動に御参加されて、御自身のライフステージ、例えばお仕事だとか、子育て、人とのつながり、地域でのつながり、そういったことについての向き合い方への変化というのがあれば、ぜひ教えていただければと思います。特に今日、お三方、皆さん、年代の違う方々だと思いますので、少しつながりのことも紹介いただきながら、御自身のことについて少しお話しいただける範囲でお話しいただければと思います。お願いいたします。

ヒアリング対象者 A 私もこのテニスが始まって、いわゆる数か月間ぐらいしか練習してなかったんですよね、始まってからね。それで、僅か半年ぐらい練習にかかったのかな。それで何となくできるような状態があって、それで、そのときも、いわゆる全国大会がすぐ迫っていきまして、全国大会が札幌なんです。第2回の札幌大会に出ましようという話になりまして、こんな状態で、技術もあまり伴っていないのに参加なんてのはできないよって言いながらも、天野先生という方がいらっしゃいまして、いわゆる考案者の先生なんです、いいから参加してみろよということで、札幌の第2回の大会に参加して。

それで、その中で全く、家内とペア組んでいたんですけども、行って、結局、全く顔の知らない仲間というか、いわゆるプレーをする仲間と対戦するわけですから、お互いに顔も知らないで対戦するわけですけど、だけど、やっているうちにどんどん熱が入ってくるんです。勝負だから。何とかして勝たなくちゃというような気持ちで、下手くそながらもそういった対戦をして、結局、それが非常にお互いのそういう交流というのができて、終わった後、楽しかったねとか、ありがとうみたいな感覚で別れて、そういうのがミニテニスのすばらしいところじゃなかったのかなというような感じは持っていました。そういうところですかね。

生島議長 ありがとうございます。

始められたとき、今のお話もそうですし、お仕事もやりながらというふうなこと。

ヒアリング対象者 A そうなんです。仕事、でも、結局、土日が多いじゃないですか。平日はそうないですから、休みもちゃんと取れていたから、そんなに問題になることはなかったんですけどね。

生島議長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。

ヒアリング対象者 B 立川でも全国大会が何回かあるんですが、それに参加するたびに、1年に1回しか会わないんですけども、もう本当に長いこと付き合っているような感覚で話ができたり、スポーツを通してこんなに楽しいことがあるのかなということは本当にびっくりしました。なかなかこういう全国の人と会うことというのはないので、競技はすごいな。立川の発祥なのに今は全国なんで、すごいスポーツなんだなと思います。

生島議長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。

ヒアリング対象者 C 自分もやっぱり人との交流というのがやっぱり増えて、自分は結構人見知りするタイプなので、それでもどんどん試合をしていくうちにちょっと話してみたりということを何回もやってというのがやっぱり多いですね。

全国大会というのも立川で行われて、北海道から広島から集まってくるんで、いろんな人とお話ができたりして楽しいですね。なかなか全国の人と試合する機会って、あまりほかの競技ではないと思うんです。そういうのが年に1回できたりするというのはいいいことだと思います。

生島議長 ありがとうございます。

やっぱり試合に出たりだとか、その試合で立川以外の方々と交流があり、また、その交流が続いていくことがかなり張り合いになっているということが、共通して、今、おっしゃられたかなと思うんですけど、例えば立川市にお住まい、その市の中でとか、または自分たちの町会にも関わられているというお話でしたけど、そういうこととの関わりであるとか、または家族や地元の御友人や仕事とのつながりで、何か変化とか、そういったものってあったりすることはありますか。

ヒアリング対象者 A Q4の内容としては、これ、いわゆる生涯スポーツという、このミニテニスで、結局、年齢別のグループで戦うんですね、そのグループで、いわゆる私どもの戦う仲間というのは、仲間って言ったらいいでしょうね、同年代に近い人たちばかりですよ。そういう集まりで大会を楽しんでいるという状態ですよ。

その中で、結局、顔も知らないけど、でも、対戦すると親しみが湧いてきて、健康状態どうなのかとか、そんなようなことを心配しながらお互いに話しして、お互いにそういうところの確認したりして、励ましたりして、また会おうやというような、そういった交流ができています。そういう点では、このスポーツ、いわゆるミニテニスの生涯スポーツとしては非常に、私どもにとっては一番、今になって非常に素晴らしいスポーツだなという、そういう感覚は持っています。

生島議長 ありがとうございます。

ヒアリング対象者 B ずっと市内で、ヒアリング対象者 C もいますけど、実はうちの家内もやっています、ミニテニスというものを通じて、どこどここの大会、どうなったということを家族で話し合うこともあるので、ふだん、なかなかそんな家族そろって話をするということもないんだろうけど、そういう話ができるのもよかったかなと思っています。

生島議長 町内の中で広がってくるということがあったんですか。

ヒアリング対象者 B 自分の町内でも、クラブを作ったんで、そこで練習もしますし、立川市内の大会で戦うこともあるんで、立川市内の人たちも、みんな顔見知りになって、ほんとにどこに行っても、いるんだねという感じになったので。

生島議長 ありがとうございます。

ヒアリング対象者 C 自分は仕事なんですけど、やっぱ体を動かすんで、体力が、自分は外の仕事、国立の造園なんですけど、外で仕事をする人が多いんで、体力というのがすごかったですね。なかなか大人になって運動する機会というのがやっぱり減ってくるんで、ミニテニスをして、すごい体力がつけました。

生島議長 ありがとうございます。

今、体力がついたって、かなり生活の中でも生きているというところもあるうかとも思いますけれども、今、Q4のところにもかなり近づいて話をお聞きしましたが、ほかにも何か、こういうこともあったというようなことがあればお知らせいただければと思いますけれども、いかがでしょうか。

ヒアリング対象者 A 都内で言うと、もう23区、それこそどこでもやっているわけ

ですよ。そうすると、非常に大会の案内がひっきりなしに来るわけです、ある意味では。土日つながったり、週にもうそれこそ3週も続けたり、そういう状況で、参加する、しないは自由に決められる話ですけども、せっかくいわゆる交流大会を案内されているということは、やっぱり参加しようという、そういう案内が来ているだけでも非常にうれしい話でして、来ないところは来ないですよ。案内が行かないところもあるんですね。だけど、そうやって案内していただいて、そういう人たちとの交わりで、結構楽しくできるというのもこのスポーツの意義がありますよね。

生島議長 大会運営なんかに関わられたりすることもあるんですか。

ヒアリング対象者 B それはあります。

ヒアリング対象者 A 役員が決まっていますんですね、運営のほうの進行はそういう役員の人たちがやります。

生島議長 分かりました。

ミニテニスをやっていることで、今、お仕事のほうに体力がというふうなことがありましたけれども、何かミニテニス以外の部分で生活に生きてきていることとか、何か変化があったとか、そういうことはありますか。

ヒアリング対象者 A そんな大げさじゃないけどね。

ヒアリング対象者 B ミニテニスをやることによって、仕事も頑張れるのかなっていうことを感じます。仕事をやる中で、ちょっとミニテニスをするによってリフレッシュしたりというのはありますよね。

ヒアリング対象者 A 気分転換。

生島議長 気分転換。

ヒアリング対象者 A そうなのですね。

生島議長 最後、少しちょっとテンポよくここまで来ましたけれども、ミニテニスを通じて学んだこと、大切に思ったこと、また何か気づかせられたこととか、何かそういうようなことがあれば、小さいことでも結構ですので何かありますか？

ヒアリング対象者 A ちょっと僕が感じているというか、それが感じているということじゃなくて、実際、それを見ているという部分があって、この質疑とはちょっと離れるかもしれませんが、地方から、もう10年近くたつんですね、このミニテニスを、要するに技術を身につけたいといって来ている方がいらっしゃるんですよ。その人は、もうよく旦那さん、ほっとくと思うぐらいあれなんですけど、10年もよくこちらにいられるもんだなと。

生島議長 通う？

ヒアリング対象者 A 通っているんじゃないくて、もうこちらに住んでる。

生島議長 住んでおられる？

ヒアリング対象者 A 住んでいて、旦那さんもそれを許して、しっかり学んでこいと言って、それまで帰ってくるなというふうな話もあったという、そういう人もいるわけですね。その人が、結局は技術を身につけて、将来的にはやっぱりふるさとへ帰ってクラブをつくりたいんだと。クラブをつくってミニテニスを広げていきたいというその野心というか、その欲望をものすごい持っている方なんです。

練習をやっていると、ちょっと教えてくださいとかって、技術的なことを教わりに来るんですけども、その人の熱心さというか、いわゆる一生懸命で、これから自分たちのクラブをつくるために一生懸命頑張ろうという、その意気込みが物すごい私も感動しまして、大したことを教えることもできませんけれども、一応、そんなことでつながりがあって、今でもそういう話を時々したり、あるいはプレーと一緒にやることによって楽しんでというか、そういう状態が今も続いておりますね。

そういうことは非常に、僕にとっても楽しく、これから非常にそういう人たちの関わりが将来的にもずっと長く続けばいいなという、私自身の個人的な思いですけど、相手はどうか知りませんが、そんなことです。

生島議長 熱心さに。

ヒアリング対象者 A それはありますね。

生島議長 ありがとうございます。
いかがでしょうか。

ヒアリング対象者 B いろんなところでいろんな大会を運営している各団体の会長さんなんかも、自分の大会に人が来てもらえるようにいろんなところの大会に参加しているのを見てすごいんだなというのはちょっと感じます。やっぱり自分の大会に人を呼ぶには、自分も他の大会に出て行って、でないと、人を集めることができないというのもあるでしょうけど、すごいことだなと感心しています。

生島議長 自分のところに皆さんに参加してもらいたいから、だから、ほかの大会にも出て、出会い、お互いそうしているという。

ヒアリング対象者 B そうですね。

生島議長 そういうところで感化していくということですね。ありがとうございます。

ヒアリング対象者 C 僕は、年齢的に言ったら、下のほう、若いほうで、やっぱり礼儀だったり、年配の方がたくさんいらっしゃるの、その方にいろんな指導をしてもらったり挨拶、いろんな人がいるので、リスペクトを持って接することですかね。

生島議長 同じ年代の方々はいらっしゃいますか。

ヒアリング対象者 C 多少はいるんですけども、やっぱり若い年代ってほんとに少なく、新しく始めてくれる人も今はなかなかいない状態なんで、そうですね、

貴重なんですね、でも、地方へ行ったりすると若い人がいっぱいいたり、そういう出会いもあったりします。

生島議長 もしこのミニテニスをやっていなかったら、こういうことってどこで学んでいたのかなとか、学ぶ機会あったかなみたいな、そういうような事柄というか、エピソードみたいなものっていうのがあったらおっしゃっていただければと思います。今、さっきちょっと挨拶をとかというふうな話もありましたけれども。

ヒアリング対象者 C 当たり前のことですよ、挨拶をって。まずなかなか社会に出たら教えてくれる人なんていなかったりするので、それをいっぱい教えてもらえます。練習の指導であったり、本当によく教えてくれるので、感謝でしかないですね。なかなか指導してくれる人が少なかったんで、自分が羽衣クラブに入るまでは、指導者というのはいなかったよね。

ヒアリング対象者 B 自分たちでやるしかなかった。

ヒアリング対象者 C 見て学んだりしかなかったんで、羽衣さんに入って本当によかったなとなりましたね。

生島議長 ありがとうございます。

予定していた質問は一通りお聞きしたんですけれども、少し追加で、皆さん方からも、このところをもう少し教えてほしいとか、ありましたらぜひ伺いしたいなというふうに思いますがいかがでしょうか。

では、堀委員、お願いいたします。

堀委員 今日はありがとうございます。

皆さんのグループは、実は3つ目のインタビューです。これまでの2つはたまたま、市役所の方が企画し呼びかけてつくった活動でした。参加した人に、そこで学んだことが自分の暮らしや成長にどう役立っていると思いますかみたいなことを聞いてきました。2つとも公民館の事業ですが。公民館で呼びかけた、あるいは公民館事業が元になっている活動に参加している方に、それでご自身はどんなことを感じたり学んだりしましたか、体験して考えましたかというようなことを聞いてきました。

羽衣さんたちがやっているのは、自主活動のサークルです。インタビューする我々の事情からすると、そこが違うところです。自主的に生まれ続けている活動の方に聞けるようになってよかったと思っています。

ミニテニスという、やっていращやる内容のことではなくて、少し抽象的に言いますと、お膳立てされたりケアされたりしているわけではない自主活動の中で体験して、どんなことを感じたのか、どんなことを学んだのかというような、そんなことを伺ってみたいということを思っています。

その意味では、Cさんが、違った年齢の人と連続的に触れ合う中で人との付き合い方を学んだとかおっしゃっていたような、羽衣の中で体験して感じたことを伺えるといいと思います。

自主活動だから、例えば新人が入ってきたらだれがどうその人に教えてあげるとか、運営する中でお互いが協力しあい体験していることも、あるだろうと思う。行政のほうからお膳立てした活動でないの。

よその地域からもよく行事の案内が来るというお話でした。参加希望も多く非常に盛んな活動なので、運営の危機とか苦しさはあまりないのかもしれない

んが、サークルの維持が難しかったり、若い人を入れるとか新人をどう育てるかとか、運営の御苦労は一般的にはよくあることだと思うのです。

そんなような面で配慮していることとか、御苦労されていることはどうでしょう？いろいろな世代の関係、競技経験の長い少ない、グループ活動が続ける中で感じたり学んだり、配慮しているみたいなことはおありかなと思うのですが、そういう御苦労はないのでしょうか。

羽衣さんはけっこう大きなグループなのですか。

ヒアリング対象者 A 今、総勢で34名ぐらいです。34名が全員練習に来て練習しているのかということということじゃなくて、やはりそれぞれ都合もあって来られない方もいる。先ほどおっしゃった若い人たち、若い人というか、新人さんですよ、来ているのはね。そういう人たちも来るわけですね。それは、例えば横山さんもいらっしゃるんですけど、指導をしてあげるわけですよ。いわゆる基礎練習というものをまずやって、何とか育てようということで、大変だと思います、思うようにいかないから。指導だけはするんだけど、思ったようになかなかそう簡単には上達してくれない。でも、それにもかかわらず、もう毎回毎回、そういうふうに指導していかなくちゃ。そういうことで、自分たちも何か間違った教え方はできませんということもありますし、そういう若い人たちに組み込んでもらっている、そういうものをしっかり身につけてもらうためにはいい指導をしなくちゃいけないという。

結局、我々も、実際、指導というか、もう自己流でやってきた状態がありまして、その自己流のものが正しいかどうかというのは全て分からなくて、だんだんだんだん基礎練習の中で、これはこうしなくちゃいけない。例えばサーブにしても何にしても、ボールの持ち方とか、それがいろんな形があるんですけど、フォームだとか、そういったものの指導を受けている。そういうことで少しずつ身につけていく。我々としては、スポーツをやる中でいい勉強になっているなというふうには思っています。

横山委員 ちょっと補足させてもらおうと、羽衣さんでは、新人さん募集の機会を年に2回設けて、近くのスーパーとか、それぞれ協会員の御自宅とかにポスターを貼っていただいて、無料で体験できるということをして、それをまたやっている協会員さんのお友達なんかをその機会に誘ったりとかして、羽衣さん独自の、あれは羽衣体育会が関係しているのかな。

ヒアリング対象者 A いわゆる羽衣体育会で、私どもが、逆に今、羽衣体育会のほうに申し出たような状態ですね、こういう体験会をやるから。そういうことで、そういうポスターを掲示板にできるだけ貼ってもらって、練習の時間帯というのはそんなに長くはないですけども、来ていただいて、六、七人ぐらいは毎回来ていたんですけど、そこから会員として参加するといつとごく数名でいらっしゃる。全くないときもありますけど。そんなことで、今、やっております。

生島議長 ありがとうございます。横山委員も補足、ありがとうございます。よろしいですか。

堀委員 ほかの方はどうでしょう、

ヒアリング対象者 B じゃ、私からで。ほかのクラブの練習にも参加するんですけど、羽衣クラブって、やっぱり最初に40分ぐらい2面使って基本練習ってちゃんとやっているんです。ほかに行くと、大体ちょっとサーブ練習とかするとすぐ

試合になっちゃうんですけど、そういうことをきちっとやってきたので、やっぱり羽衣はすごい、40分ぐらいきちんと練習をしているから、やっぱりそこでうまくなる人たち、多いと思うんですね。それはちょっとすごいと思っています。

ヒアリング対象者 C あともう一つ、新人さんが入ってきたときに、新人コートというのをつくって、新人さんだけと指導員で練習をして、新人さんだけで最初は練習しているので、ほかの人がいたりするとあまりボールが打てなかったりとかもあると思いますけど、新人さんだけで固めて一コートを取って練習するのすごいやりやすいと思いますね。あまりほかの練習行ってもそういうのはないので、新人さんがすぐうまくなれるようにされていると思います。

堀委員 受入れ体制が割合しっかりしているということなのでしょうね。

立川市にはミニテニスのサークルがたくさんあるのでしょうか、入りやすいところ、続けやすいところというような比較も見えるのでしょうか。

ヒアリング対象者 A 正直言いますと、早く世代交代したいんですよ。若い人に早く上手になってもらって世代交代したいという。我々年寄りはいまだにも続けられないなと思います。こういう若い人たちが来ていただければ、非常に活気もありますし、どんどんやっぱり技術を身につけて、対戦相手はもういないぐらいまで。

先ほど地方の話をしていたんですけど、本当に地方の若い人たちというのは恐ろしいほど強いです。本当にびっくりしちゃいますね。そういう人たちが1人でも2人でも集まってくれば、またすばらしいクラブになるんだろうなというふうには思いますけど、なかなかそれは難しいですけども。

ちょっと余談ですけども。

堀委員 ありがとうございます。

ヒアリング対象者 B でも、団体戦では羽衣は各部門で全部入勝していましたもんね。一番よかったのは。

ヒアリング対象者 A 何とか頑張っ。

今回、やはり市民大会というのが今度の日曜日にありまして、市民大会がいわゆる地区戦なんですね。地区対抗戦なわけです。12団体があるんですよね、1地区。それとの対戦です。総当たり戦。予選通過して、トーナメントに入っ、羽衣が今回はなぜか夢みたいな第1位として優勝しましたから。これはもう日頃の練習が一つは生かされてきている。頑張っている。その努力が結果として出たのかなというふうには思っていますけど。

生島議長 ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。小畑委員、お願いいたします。

小畑委員 お三方のお話を聞いて、非常に感銘を受けるところがあります。私自身もいろいろなスポーツや、ずっと続けているようなものがありますので、非常に似たようなところがあるかと思います。今の3人の方がお話をされた、始めるきっかけのところで、それぞれスポーツ系といいますか、運動系を経験されているのが土台にあるのかなと思っていて、想像でしかお話しただけないかと思いますが、もし御自分がスポーツや運動をしていなかったら、これに出会っ

たときに興味を持って入ったのかどうか、お話しただけるとうれしかなと思います。すみません、失礼なことを聞いているかもしれません。

ヒアリング対象者 B 難しいですね。確かに運動やっているから、やろうかという気にはなったんで、多分、その競技を見たときに、面白いなという感覚があるんだったら、やってみようかなとは思うかもしれませんね。

ヒアリング対象者 C やっていなかった世界線を全く想像できない。まれにですけど、体育館とかで試合していると見ている人とかがいるんですね。結構物珍しそうに、あまり多分、見る機会はないと思うので、見ている人がいて、興味は持つかもしれないですね。

ヒアリング対象者 A やっぱいろんなスポーツがありますよね。そういうのをテレビや何かで見ていると、自分なりにああだこうだって批評しちゃうわけですよ。私もちょっとバレーボールをずっとやって、そういう長年やっていたバレーボールの中でのことかもしれませんけれども、何であそこであんなことするんだろうなとか、そういうことを勝手に思ったりしているんですけれども、全く私もスポーツやっていなかったら何しているだろうなって、今、言われてもちょっと思いつかないな。

田舎もんですから、私はもう田舎でスキーをやっていたり、言ってみれば昔ですから、いわゆるそりを作って、竹スキーだとか、御存じだと思いますけど、そういうもので遊んでいたことがありますから、そういうのも運動の一つかなとは思いますが、今回のこういうスポーツに対してはまたちょっと違った面がありますので、ちょっと今の質問に対して想像つかないところがありますけれども。

堀委員 今のお話の関連で伺うと、そもそもあまりスポーツ経験自体がなくて入ってこられた方とどう接するかというような、そういうことはあまりないのですか。皆さん、割合何らかのスポーツをやっていたような感じなのか。

ヒアリング対象者 A 例えばさっきから何回も話しておるのですが、中高、実業団とずっと27年、バレーボール一本でしたから、運動は決して嫌いとか云々ということじゃなくて、やっぱり運動してなくちゃいけないんじゃないかというのは気持ちの中にありましたからね。ただ、やっぱり勤めたりなんかしている中で、なかなかそういう運動の機会がつかなくて、先ほど、冒頭にも家内から誘われて云々って話をしましたが、結局は何かやらなくちゃいけないという気持ちになりました。取りあえず顔を出してみようというのがきっかけで始まったわけです。やっぱり何のスポーツでも、ちょっと関わったほうがいいんじゃないかなという、そういう気持ちは私は持っていますね。やりたいことをやればいいかなという、そういうことです。

ヒアリング対象者 B お話の中でミニテニスをやっているの、最初に「何かのスポーツやりました？」と聞くときに、「いや、何もやっていない」という人は何人もいなかったですね。何かをしなきゃいけないという考えは持っていて、たまたまミニテニスを見た後、講習会があるというのを見て参加した方がいらっしゃるのは聞いたことがありますね。意外と、そういう人って何もないので、素直だから結構うまかったです。変な形がないので、教えられたことがそのままできるから結構うまかったりしていました。

ヒアリング対象者 C 僕は、まだ歴も浅いんで、そういう人には出会ったことが今までなかった。何かしらのスポーツをやっていてミニテニス始めたという人がほとんどですね。

生島議長 ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。横山さん、何か、身近なところなので。

横山委員 私は答える側かなと思っていたんですけど、このスポーツ、楽しいですかという質問ですかね。どうして続けられるかというところに関わってくると思うんですけど、どういうところが楽しいか、ちょっと知りたいなと思います。楽しいと、楽しいから続けてらっしゃると思うんですよ。ミニテニス、スポーツの何が楽しくて続けることができるのかということをお聞きできたらなと思います。

ヒアリング対象者 A 私は、結局、スポーツというのは若い人とお年寄りの壁というのがほとんどないわけでしょう。ほぼ年代の人たちとのグループの中で戦うわけですよ。結局、だから、先ほど誰かがおっしゃった、毎回同じ人が出てくるわけですよ、対戦、何かの大会があったときに。そうすると、いやあって言いながら、結局は、今回、やられたの、引き分けだのという話で、結局、そういうのは、別に憎しみじゃなくて、そういう親しみ合った会話もできる。そういう楽しみのあるスポーツじゃないのかなというふうに私は思っているんですよ。だから、地方へ行っても、地方の方もそんなに顔を覚えているわけじゃないんですけども、心境としては何かもう似たような感覚かなというふうには思っていますね。

特に横山さんとか、地方、よく行かれるから顔が広いんです。だから、若い人たちが、実は私の息子もやっているんです。2番目の息子がね。それも、結局、つながりがあるもんですから、結局、息子を通じて私のところに、お世話になってますなんて来る方が非常にいるんですけど、お世話した関係もないんですけども、そんなようなことで非常にいいつながりができる、そういうスポーツじゃないのかなという。私はそういうふうなミニテニスが、生涯のスポーツとしては最高のスポーツだというふうには私は思っています。

堀委員 関わる人がどうしても強さのランク別になってしまう、そういうタイプのスポーツが多い。そうでなく世代別に分かれることが特徴だというふうに伺ったのです。それがすごくいいのだということですかね。そのことがすごくやりやすいのだというお話ですね。

ヒアリング対象者 A これは個人戦じゃないので、必ずペアとして組んでやりますから。混合だったりということで、そういう中で、女房は女房で誰かと知り合いになっていたり、そんなことでいいつながりになっているとは思いますがね。

ヒアリング対象者 B 何が楽しいかと言われると、私も基本的に負けず嫌いなんで、強い人に試合で勝とうとは思わないんですけど、一本でもいい球が決まればいいという感じなのね。ぜひこの人から1点取りたいなと、横山さんから1点取りたいなと。毎回やられちゃうんで、1点ぐらい取れたらなと。

生島議長 勝つというだけでなく、目標が持てるという。

ヒアリング対象者 A ずば抜けた選手はいますからね。それをしっかり受け止めれる技量ができれば、もっと楽しいんですよ、これがね。言ってみれば、強い人のボールに対しても対処ができたという喜びですよ。

ヒアリング対象者 B 自分の形で1点取ればそれがね。

ヒアリング対象者 A そうというのがやっぱりあるんです。

生島議長 いかがでしょうか、Cさん。

ヒアリング対象者 C 僕も同じですね。本当勝負も大事ですけど、1点の取り方、自分の満足する1点の取り方ができたときには、すごい練習の成果が出たなというのが。もうそれに伴い順位も上がってきたら、それが一番うれしいです。

生島議長 ありがとうございます。
よろしいですか。

横山委員 ありがとうございます。

生島議長 ほかにいかがでしょうか。田代委員、お願いします。

田代委員 今、いろいろお話を聞いて面白かったんですけど、一つだけどうしても分からないのが動機づけなんですよ。やられたときのお話というのはされましたけど、それから長く続いている動機というのは何なんだと。途中で結構やめちゃう方もいらっしゃると思うんですよ。その人たちは何がつまらなくてやめちゃうのかなというのと、長く続いている人は何が動機づけになって長く続いているのかなというのが、ちょっとその辺がよく分からなかったもので、もしできたら教えてください。

ヒアリング対象者 C 自分の場合だと、結婚、出産とかが女性の方はあるんで、そこで1回離脱しちゃったり、子育てから離脱してしまったりって方もいますけど、また戻ってきて、好きな人はまた始めるというのはあります。

田代委員 やっぱり長く続けていて楽しいとか、面白いとかというのはあって、でも、それだけじゃないと思うんですけど、何かほかに続いている動機みたいなことは。

ヒアリング対象者 B 人との繋がりじゃないですかね。やっぱり毎回毎回同じようなことを同じ仲間とやっている事が長く続いている理由というのもありますよね。

田代委員 こういうサークル活動というか、そういうので、要は競争がないものであっても長続きしているところもあるので、その辺と比べてときに何が、長く続く要因はどこにあるのかなみたいなのところ。例えばウオーキングって歩いて歩くだけの人が結構いるわけですけど、あの人たちは競争しているわけじゃなくて健康のために歩いているみたいなのところなので、そういうのは、特に誰と競争するとか、何かがあってすごい感激した、うれしかったとかというのはあまりなさそうなんですけど、長続きする原因というのはちょっと、要は相手との話というより、ちょっと違うところにも何かがあるのかなと思って、その辺

はあまり。

ヒアリング対象者 A ミニテニスはそんなに過激じゃないんですよ。どっちかっていったら、楽しんでできるよね。楽しんでできるようなスポーツだから長続きするんです。やられて悔しいとかというのはあるかもしれませんが、だけど、実際、運動そのものがきついとか、ちょっと面白くないとかという内容ではないんですね。結構、だから、楽しくできるスポーツかなというふうに思って、それが何十年と続くようなスポーツですので、これは全国的にそういう方が大勢いるわけですから、心境としては同じじゃないのかなって気がしますけどね。楽しい。

ヒアリング対象者 C 一つ、ダブルスで、女性同士のダブルスとか、男性と女性、男性・男性、組合せがいっぱいあるんですね。あと、組む人も自分で自由に選べると。だから、毎回、同じ人と組んで、毎回、同じ人、毎回、同じペアの人と試合するわけでもない。対戦相手が必ずしも同じということはないということ、そういうのも楽しい理由にはなってますね。

生島議長 よろしいですか。

ほかにはいかがでしょうか。

ちょっと私も1点伺いできれば。楽しいということ、かなり競技の特性があったりだとかもするかなというふうには思っているんですが、サークルというか、活動、団体としてみんなが楽しんでやれるように、続けていけるように何か工夫されていることとか、競技以外の部分で何か工夫されていることってありますか。活動、運営上であったりだとか。それはあまりない。

横山委員 これ、じゃあ、私から。私、羽衣の準会員なんですけど、雰囲気がとにかくいいんですよ。やっぱりサークル、サークルによってカラーというのがあると思うんです。羽衣というサークルのカラーは、すごく雰囲気がいいんです。私とか指導することが多くて、時に強いことを言ってしまうたりすることもあるんですけども、それを言われても、へこむんじゃなくて、ハハハって笑い飛ばしてしまう。そうすると、それも本人だけじゃなくて周りも笑ってくれるから、そうすると言われたことを聞きながらも負担にならないというような環境がおのずとできてしまうんです。

それを、誰かがつくっているというわけではなくて、その雰囲気のままでの中でやっているの、嫌な気分になったりとか暗くなったりすることが少ないというのと、例えば嫌な気分になってしまったときに、それを訴える場所が、何かちょっと嫌だった、ためておかないとか、ためておかずに、ちょっとたまるかもしれないんですけど、言える相手がいるというような状況が結構あって。

生島議長 それはお仲間同士で。

横山委員 はい。それがヒアリング対象者 A さんだったりとか、その下にいる女性の方だったりとか、そういう長続きできない理由になりそうなのが結構ないというのが、羽衣クラブの特徴だと思うんです。

だから、羽衣クラブをやめる方というのは、やはり病気でとか、けがでとか、あと、御家族からとめられてとか、そういうような理由の方が仕方なく、もう続けたいんだけど続けられないという状況でやめられるって方がいますけど、ほかの理由で離れるという方は私はあまり見たことがないです。

生島議長 ありがとうございます。

今のに何か付け加えることとか、何か気づかれることで。

ヒアリング対象者 A うれしいですね。そう言っていただけると非常にうれしいです。

いざこざとか、そういうことはないです。起こしたくないです、逆にいうと、そういうことを。あまり仲間うちでいろんな、やり取りするような内容は、あまり周りの人に対してもいいことはないというふうに私は思いますんで、そこら辺は穏やかにプレーができて楽しめればいいかなというふうな気持ちでいます。

ですから、あまり抑えることもあまりしません。それがうちの仲間にも、ちゃんとそれをフォローしてちゃんとやってくれる人がいるわけです。私が云々じゃないですから、そういう意味では、羽衣は非常に雰囲気としては僕はいいなというふうには思っているんですけど、皆さんはどうかと思いますけど、そういうふうに思っていただければ、それはありがたいなと。

生島議長 ありがとうございます。

皆さん、うなずいておられますので同調されているかなと。何か付け加えられることはありませんか。

ヒアリング対象者 C 言ったとおり、本当に温かいですね。試合とかになると、朝より荷物が多くなって帰ることがあります。お菓子とか朝来たときよりも荷物が多くなって帰るくらい、すごいみんな、温かいです。

ヒアリング対象者 B 当日、大会に参加しないのに応援に来てくれたり。

生島議長 ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。根岸委員。

根岸委員 先ほど小畑委員が御質問した中で、スポーツをしていない人がいてどうですかという話があったんだと思いますが、私は、今、多分、誰でもできるんですよ、最初は。ボールもすごく軟らかくて、ラケットも短いから、誰でもやろうと思ったらできるんですよ。でも、そこからうまくなるのは結構大変なんですけども、最初、やろうと思えば、先ほどヒアリング対象者 A さんが言ったように、きついスポーツじゃないので、だから、かえて今までスポーツをやったことがない人可以る、楽しんでできるスポーツなんじゃないかなと私的には思っているんですけど、いかがですかね。

ヒアリング対象者 A そうですね。過激なスポーツじゃないです、実際。ただ、狭いコートの中で動き回りますので、非常に足首を傷めたとか、肉離れしたとか、そういうことは、やはりしっかり準備運動ができてない方が大体そういう状態が起こるんです。でも、我々のところは必ず練習前の準備運動、それから整理体操というのはきちっとやっているんで、特にもう率先して横山さんがやっていただけるんで、雰囲気としてはそういう状態です、羽衣は。ほかのところも一生懸命やっていらっしゃると思いますけれど、羽衣の雰囲気としては、皆さんおっしゃったような内容で今後もずっと続けばいいなというふうに思っています。

根岸委員 あと一つあるんですけど、国立のほうってほとんど女性なんですね。男性

がなかなか入ってくれないんですよ。羽衣さんの場合は結構男性が多いですよ。やっぱりそういうところって、どうやって誘っているのか、すごく前から思っていたんですけど。

ヒアリング対象者 A だけど、男性も国立の方で若い方がいらっしゃいますよね。

根岸委員 そうですね。

ヒアリング対象者 A その方が羽衣へ準会員として男性が来ているから、当然、うちの息子もちょっとできない状態になっていますけど、そういう仲間がいて、どんどん声がかかっているのか、あるいは羽衣に来て、そういう仲間がいるから来て増えていくのか。ちょっとやっぱり若い人たちのパワーは違うんですよ、我々と違って。年寄りはその人しかできませんから、若い人たちのパワーはやっぱり若い人のところへどんどんと集まる。そういう雰囲気がありますのでね。どうなんですか、その辺は。

根岸委員 30代、40代、50代って、割と男性多いですね。

ヒアリング対象者 A そうですね。今、60代が多いのかな、50代もいるか。そういう年齢層がいるという、クラブの雰囲気が違いますよね。お年寄りばかりだとちょっとパワーがないんで、その辺はちょっと何かパワーあったけど、そういう中に自分も一緒になって入ってやりたいという気持ちになると、やっぱり全体がよくなっていく。あそこのところには入っていけないというような状態ではないので、これ、入ってきますけれど、そういう雰囲気がいいんじゃないかと思います。

生島議長 男性の人たちがいる、いることがまた男性がより引きつけられてくるところもどうもありそうということですね。ありがとうございます。

よろしいですか、根岸委員。

あとはいかがでしょう。寺澤委員、記録、一生懸命取っていただいている。何かあれば。よろしいですか。

生島議長 何か、せっかくの機会ですのでアピールしていきたいこととか、今後のこと、言い残したからぜひお話ししていきたいということがありましたら、ぜひ聞かせていただければと思いますが。よろしいですか。

寺澤委員、お願いいたします。

寺澤委員 スポーツ団体というふうに私が横山委員に聞いたときに思ったのは、健康づくりという切り口はどうなんだろうって思ったことで、そういうのはどうですかといった。そういう意味で言うと、健康づくりのために始めたという方が、割といたりするかとか、皆さん自身がやっていて、何か健康面で変化があったところとか、継続することによってこんないいことがあったよみたいなところで何かありますか。

ヒアリング対象者 A 私は健康づくりという感覚で入ったんじゃないんですよ。もうバレーボールやっているから勝負したいという、そういうことですよ。だから、下手くそでもとにかくやっている中で、バシバシ、ラケットを振り回しているうちに楽しくなってきちゃったというのがまず第一です。そのために、健康を気にしながらやっているのかというんじゃないで、そういう運動をやっ

いるうちに健康につながっているんだらうなという、後から考えればそうなるんですけど、あまりそこまで考えたことはないですね、健康云々。

今になって、年取って、やっぱり動かなくちゃというのはあります。やっぱり体を動かしてないといけないなという雰囲気は感じとしては持っていますから、できるだけ練習には参加して、練習、ちょっと動き回って、それは一つ必要じゃないのかなというふうには今は思っていますけどね。

生島議長　いかがでしょう。

ヒアリング対象者 B　どっちかという健康づくりというよりは、やっぱり自分の技術向上ということですかね。

生島議長　技術向上。

ヒアリング対象者 B　ヒアリング対象者 C からも話があったと思うんですけど、すごい年齢差のおば様方にこてんぱんにやられて、ああいうのが悔しくて、参加することだけで意味があるのがだんだん勝ちたいというふうになくなって、ちゃんとしたクラブに入ろうと思いました。それ自分たちだけだと教えてくれる人もいないし、限界があるので、やっぱり今のクラブには技術を教えてくれる人もいます。

ヒアリング対象者 C　自分の年代では、まだこういう健康づくりという目的は少ないとは思いますが、でも、やっぱり自分も外で仕事をしているので、健康にはつながっています。

生島議長　ありがとうございます。

よろしいでしょうか。

では、本日はお時間いただきましてありがとうございました。非常に内容の濃い、そしてミニテニスの魅力というのがすごく伝わってくるようなヒアリングになったかと思います。ぜひこれからもけがなく続けていただければなというふうに思いました。本当にありがとうございました。

そうしましたら、ヒアリングは以上とさせていただきますと思います。

ここでミニテニスのサークルの方々、お三方には御退席いただくということで。どうもありがとうございました。（拍手）

（ヒアリング対象者　退室）

生島議長　皆さん、お疲れさまでした。ありがとうございます。

今日の記録につきましては、寺澤委員のほうにおまとめいただいておりますけれども、ぜひ皆さん方御自身でも少しそしゃくをしていただきながら、またこれまでの議論ともつなげて、踏まえて考えておいただければというふうに思います。

それでは、次第3の事務局からの連絡事項に入っていきたいと思います。事務局のほう、お願いいたします。

事務局　事務局です。

連絡事項に入ります。前回定例会でお配りしたカレンダーの予定表のほうの御記入の提出、ありがとうございました。皆様からいただいた予定を基に、なるべく多くの方が御参加いただける日程で、子ども長崎派遣、グローバルカブ

エにつきまして、児童青少年課を通じてヒアリング日程の調整を行ったところ、7月の1日水曜日、時間が午後5時から6時半となりました。場所は、国立市役所の3階、第5会議室です。

後日、正式にメールで出欠の確認をさせていただきますが、もしよろしければ今現時点で人数確認のほうをさせていただきたいと思いますので、7月の1日、出席できる方はいらっしゃいますでしょうか。

生島議長 取りあえず行けるよという、現段階で分かる人が3名いらしたようです。

事務局 3名ですね。

生島議長 まだ分からなそうだという方がいらっしゃれば、また後ほど。

事務局 後ほどですね。

生島議長 分かり次第ということで。

事務局 そうですね、後日、また出欠の確認、取らせていただきますので、よろしくお願いいたします。

生島議長 場所は市役所の。

事務局 場所は市役所の3階の第5会議室というところになるんですけど、3階に上がっていただきまして、そうですね、第1・第2会議室、皆さん、何回か会議をやったことがあるかと思うけど、そちらのさらにもうちょっと奥のほうのお部屋になりますね。生涯学習課のほうの窓口に来ていただければ御案内はいたしますので、御安心ください。

よろしいですかね。この件について、大丈夫でしょうか。

では、続きまして次回の定例会についてです。第14回の定例会を行う日は、6月の24日水曜日午後7時からです。場所は、国立市役所の会議室棟さくらのへや、うめのへやで行います。よろしくお願いいたします。

以上です。

生島議長 ありがとうございます。

その他、御質問など、または皆さん、委員の中で何か情報共有したいことがありますでしょうか。よろしいでしょうか。

なければ、本日、予定しておりました案件は以上となります。

次回の会議ですけれども、6月24日水曜日午後7時から国立市役所の会議室棟、うめのへや、さくらのへや、新しいところです、で行います。

これをもちまして、本日の会議を終了いたします。お疲れさまでございました。

—— 了 ——